

令和8年度 自己評価(中間評価)

■教職員自己評価【中間評価】

■重点目標

生駒市第3次教育大綱に基づいたグランドデザインの改定に伴い、重点目標も変更しました。

1. 自ら選び、自分に合った方法で、自分のペースで学ぶために

- ①主体的・対話的で深い学びを実現し、生きて働く知識技能、思考力・判断力・表現力を育む。
- ②ESD等の探究的な学びを充実させ、学びに向かう力を育むとともに、情報活用能力の伸長を図る。

2. みんなが楽しく学び個性を発揮できる場をつくるために

- ③意欲や好奇心を大切に、生き生きと学び豊かに成長できる学校づくりを進める。
- ④周りの人に対して進んで挨拶し、きまりや節度を守ろうとする態度を育む。
- ⑤運動や遊びに親しむ態度を育む。

3. ダイバーシティ&インクルージョンを推進するために

- ⑥人権意識を高め、自分も相手も尊重して共生できる仲間づくりを行う。

4. よりよい地域づくりへの意識を深め、「地域と共にある学校」をつくるために

- ⑦学校・園、家庭、地域と連携した協働活動を推進する。

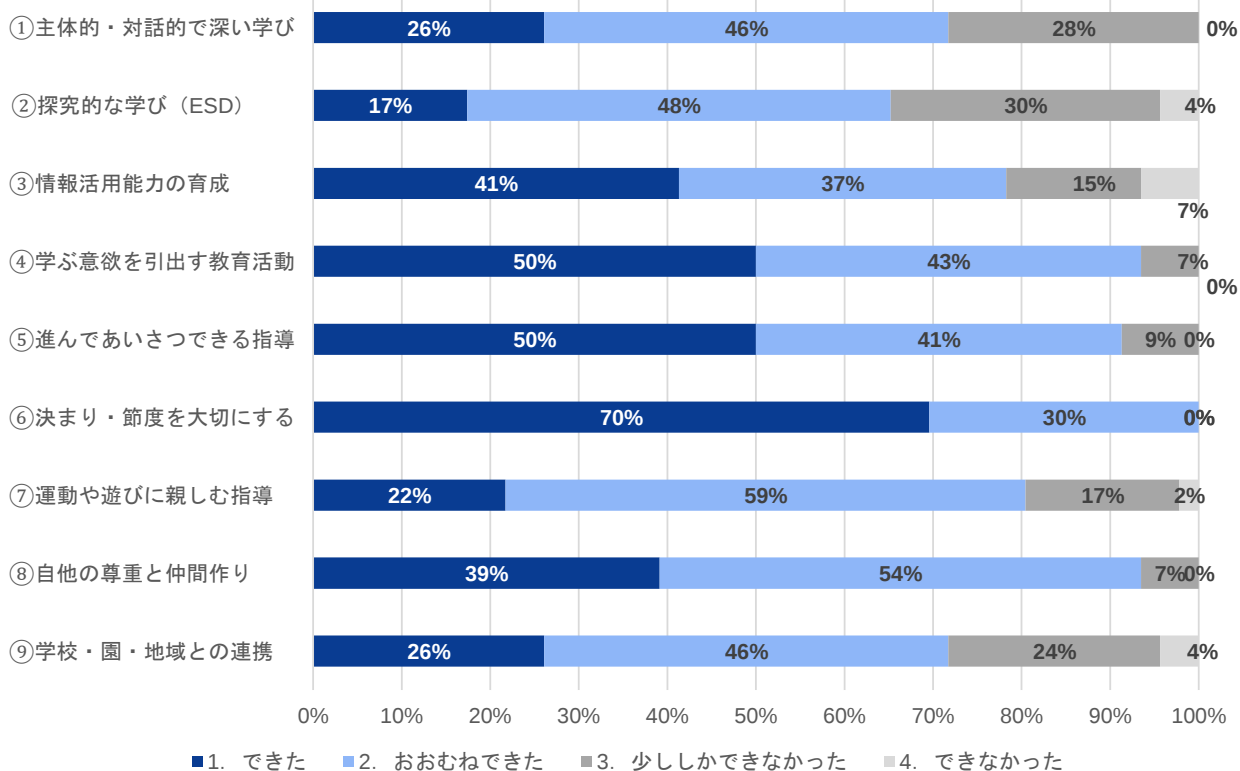
上記の内容が網羅されるように教職員の質問項目を精選し、上記の目標②を「探究的な学び」と「情報活用」に、目標④を「挨拶」と「きまりや節度」に分け、9項目において自己評価を行いました(1学期末実施)。以下にその結果を示すとともに、簡単な考察を記します。

■調査項目

1. 主体的・対話的で深い学びを実現するための指導に取り組んだ
2. ESD等の探究的な学びを充実させるための指導に取り組んだ
3. iPad等の情報機器を活用して、情報活用能力を育む指導に取り組んだ
4. 児童の意欲や好奇心を大切に教育活動に取り組んだ
5. 児童が周囲の人に、自ら進んであいさつできるよう指導している
6. 児童が学校のきまりを守り、節度をもって行動できるよう指導している
7. 体育の授業や休み時間の遊びを通して、進んで体を動かすよう指導している
8. 人権意識を高め、自他を尊重し共生できる仲間づくりを進めている
9. 学校・園、家庭、地域と連携した学習活動を進めた

■アンケート結果

*グラフの数値は四捨五入されています。



■各項目の評価

①主体的・対話的で深い学びの実現

この設問は本年度新設した項目です。「できた」「おおむねできた」と回答した教職員は72%でした。

この「主体的・対話的で深い学び」は、学習者である子ども一人ひとりが学習の主体となり、他者との対話や協働を通じて、知識・技能を活用しながら思考を深めていく学びの在り方を指すとともに、授業者側からは授業を設計・改善していく際の方向性、授業改善のための基本的な視点として位置づけられています。本校では、本年度より奈良県教育研究所の「読解力向上NARAプラン」の研究協力校となり、子どもたちの「汎用的基礎読解力*」の向上を目指した教育活動に取り組んでいます。一学期には、教育研究所より指導主事を招聘しての研修会や授業研究を行うなどして、教職員の資質の向上に努め、授業改善を進めています。二学期以降、この面での自己評価も高まることと考えています。

二学期末の児童への質問は、「進んで学習にとりくみ、自分の考えをもちましたか」です。

*書かれた文章を、教科・分野を問わず読解する力であり、効果的な学習の基盤となる資質・能力(奈良県教育研究所)

②ESD等の探究的な学びの充実

この設問に対して「できた」「おおむねできた」と回答した教職員は65%でした。

昨年度本校はユネスコスクールへの承認を得ることができました。本年度も継続して、地域学習等を主体としたESD(持続可能な開発のための教育)を進めています。各学年とも本格的にESDを実施するのは二学期ですが、すでに福祉や国際交流など、学年によっては取組が始まっています。ESDを通して、地域を愛し、社会に貢献しようとする心情を育みたいと思います。また、この設問は①の「主体的・対話的で深い学びの実現」とも重なるものです。ESD等の探究的な学習活動は、子どもたちが学びを広げ、深めることに資するものと考えます。

二学期末の児童への質問は、「課題を見つけ、調べて理解し、その課題を解決できましたか」です。

③情報活用能力の伸長

この設問に対して「できた」「おおむねできた」と回答した教職員は78%でした。

学年の発達段階に応じて、情報の収集・取捨選択・理解・活用・作成・発信する力を、子どもたちに身につけさせる必要があります。例えば、低学年で植物や生き物の写真を撮って来て見つけたことを発表することから始め、高学年では集めた様々な情報や自分自身で準備した資料を効果的に活用して説明したり発信したりすることができるような子どもの育成を目指します。そして、この力は本校が進める「汎用的基礎読解力」の向上や「ESD等の探究的な学び」の充実と深く結びつくものです。また、子どもたちの基礎学力の定着を図るため、AIドリルの積極的かつ確実な活用も継続して行っています。

二学期末の児童への質問は、「iPadなどの機器を使って情報を集め、発信することができましたか」です。

④意欲や好奇心を大切にしたい学びの実現

この設問に対して「できた」「おおむねできた」と回答した教職員は93%でした。

学習活動だけでなく、学校生活全般において、子どもたちが「やりたい」「挑戦したい」という気持ちを大切にしていきたいと考えています。子どもたちの興味関心は一人ひとり異なります。それぞれの子ども自身が自分の特徴に気づき、良いところを伸ばしながら学校生活を送ることができるようにする必要があります。学習面では、子どもたち自身が計画を立て、見通しをもって学習し、学習の進め方を調整しながら学ぶ経験を、生活面では、学級活動や学校行事で自主的に活動を行う取組の充実を図ります。とりわけ二学期は運動会や社会見学、高学年の野外活動や修学旅行など、子どもたちが自主的に活躍できる行事がたくさんあります。そのような取組を通して、子どもたちの個性を発揮できる場を創り出したいと思います。

二学期末の児童への質問は、「学習や生活で自分の個性を発揮できましたか」です。

⑤進んであいさつできる

この設問に対して「できた」「おおむねできた」と回答した教職員は91%でした。

本校の子どもたちは、よくあいさつをする子が多いです。教職員の指導だけでなく、地域の方や家庭でのお声掛けのおかげだと感じています。朝、通学路を歩いていると、子どもたちが「おはようございます」とよく声をかけてくれます。また、見守りの方から「すごく元気に挨拶してくれてうれしいです」とのお声を頂戴することもあります。一学期には、見守りボランティアの皆さんが「あいさつのぼり」を持って通学路に立ってくださり、あいさつ運動を実施してくださいました。その際に、学校メールにて保護者の皆様にもあいさつ運動をお知らせし、ご家庭でのお声掛けをお願いしました。おかげで、今回の期間中、いつも以上に子どもたちがあいさつをしていました。今後もこの取組の充実を図りたいと考えています。

二学期末の児童への質問は、「先生や友達、地域の人に自分から進んであいさつできましたか」です。

⑥きまり・節度を大切に作る

この設問に対しても「できた」「おおむねできた」と回答した教職員は、100%でした。これは昨年度も同様の結果でした。年度当初に生徒指導部会が作成する「生徒指導の手引き」を活用しながら、生徒指導に関する共通理解を教職員間で図り、どの学級・学年においても共通の指導を心掛けています。また、定期的に生徒指導部会を開催し、生徒指導案件に関する情報交換を行っています。本年度も子どもたちは全体的に決まりを守り、落ち着いて学校生活を送っています。ただ、毎年二学期末に行う児童アンケートでは、子どもたち自身の評価は8割弱にとどまる項目です。本年度は9割を超えるよう、日々の指導を心掛けたいと考えています。

二学期末の児童への質問は、「学校の決まりを守ったり、良いこと悪いことのけじめをつけたか」です。

⑦運動や遊びに親しむ

この設問に対して「できた」「おおむねできた」と回答した教職員は、81%でした。割合としては、昨年度より約5ポイント下がった項目です。本年度も、多くの子どもたちが朝休み、中休み、昼休みに外に出て元気よく遊んでいます。運動場では鬼ごっこや各種球技、遊具遊びなど、学年の発達段階に応じてのびのびと遊んでいます。本年度より、体育館でのエアコンの使用が本格化し、暑い日・寒い日の体育の時間も比較的快適に実施できるようになりました。子どもたちが運動に親しむ環境が整ったことで、この項目での子どもたちの評価が伸びればよいと思います。

二学期末の児童への質問は、「体育や休み時間に、元気に体を動かしたり遊んだりしましたか」です。

⑧自分も相手も尊重し共生できる仲間づくり(人権教育)

この設問に対して「できた」「おおむねできた」と回答した教職員は93%でした。本校の人権教育の目標を「相手も自分も大切に作る子どもを育て、互いの違いを認め合い、支え合うなかま集団を育てる」に定め、全校体制で様々な取組を行っています。本校の伝統となってきた「ありがとうの木」に全学年で取り組み、子どもたち同士がお互いに「ありがとう」の気持ちを伝えあうよい機会としています。また、実施時期は学年ごとですが、人権教育の学習参観を全ての学年で実施し、保護者の皆様と共に人権について考える機会を設け、全校をあげての人権意識の涵養に努めたいと思います。ただし、子ども同士のトラブルがないわけではありません。トラブルが起きた際には、みんなで解決することが大切です。そのためには、教職員が子どもたちの言動や変化に敏感になり、時には保護者の皆様との緊密な連携が必要であると考えます。

二学期末の児童への質問は、「みんなから大切にされ、安心して学校生活を送ることができましたか」です。

⑨地域の力を生かした教育(地域との連携)

この設問に対して「できた」「おおむねできた」と回答した教職員は72%でした。割合としては、昨年度よりも約7ポイント上昇しました。この項目は、毎年少しずつ伸びています。毎日の登下校における見守り活動やゲストティーチャーを招いての授業など、地域の皆様にご支援いただく機会が増えてきたこと、そしてその「ありがたさ」を教職員が実感している結果であると考えています。6月には子どもたちが主体となって、「ボランティアの皆さん ありがとうございます集会」も開催させていただきました。また、本校では地域学習を中心としたESDを推進しており、どの学年においても、二学期には本格的な取組を開始します。今後も、地域の皆様や各機関と連携、し地域学習をさらに充実させるとともに、学校が地域に貢献する機会をつくりたいと考えています。

二学期末の児童への質問は、「地域の方に教えてもらったり、いっしょに活動したりできましたか」です。